

13 生産基盤の整備を通じた地域ぐるみの加工・業務用野菜の産地化推進

ひがしおうみ
【滋賀県・東近江市】

地区の特徴

平地地域

水稲・野菜

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

- ほ場整備を契機として、集落営農組織を設立、法人化し、高齢者や女性も参画した6次産業化を展開。
- 水田の畑利用を促進するため、地下水位制御システムを積極的に導入し、キャベツの生産拡大を実現。
- 市、JA等で組織する協議会が、生産から販売まで一貫した支援を行い、加工・業務用野菜の産地化を推進。

取組前

未整備の生産基盤 担い手不足

よみあいどう
読合堂地区

【営農規模】 34ha
【農家数】 45名
【作物】 水稲

- 昭和27年から国営事業等により、ダムや用水路等を整備
- ほ場の排水不良により、水稲主体の営農
- 地区内全農家が第2種兼業農家であり、後継者不足が進行



永源寺ダム

取組内容

ほ場整備

県営ほ場整備事業 (S52~55)

集落営農組織設立・法人化

フォアス FOEAS (地下水位制御システム)

農業基盤整備促進事業等 (H22~27)
農地耕作条件改善事業 (H28~)



フードシステム協議会 設立

市、4JA、農業者、民間企業等の連携により、加工・業務用野菜の産地化を推進

水利施設の改修

国営かんがい排水事業 (H26~)

取組後

加工・業務用野菜の産地化推進

よみあいどう
農事組合法人 読合堂営農組合

【営農規模】 34ha
【組合員数】 54名
【作物】 水稲：22.5ha、小麦：9.4ha、大豆：10.1ha
キャベツ：1.1ha、かぼちゃ：0.3ha

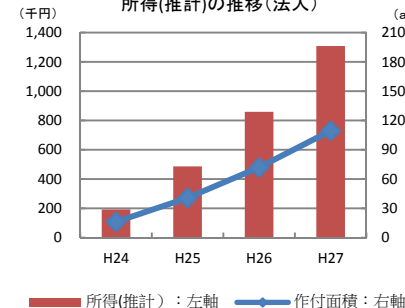
【農地集積、6次産業化の進展】

- 法人化により、農地集積100%を達成 (H27)
- 地域の高齢者や女性が参画し、かぼちゃプリン等の加工品を開発

【加工・業務用野菜の生産拡大】

- 地下水位制御システムの導入やフードシステム協議会の支援により、キャベツの生産が拡大

キャベツの作付面積、所得(推計)の推移(法人)



商談会出展による販路開拓

きっかけ

ほ場や水利施設が未整備であり、非効率な営農
高齢化による担い手不足も進行

国営事業 (S28~58) により
ダム、用水路等を整備

FOEAS (地下水位制御システム)

給水と排水の調節機能を有した水位制御システムで、暗渠からの排水や地下灌漑を行い、作物に応じた最適な水位 (-30cm~+20cm) を維持することできる技術です。



自動キャベツ移植機



畝コンテナによる収穫

将来に向けて

- ☑ 地下水位制御システム (FOEAS) を地区全域に導入し、キャベツの生産拡大を推進
- ☑ キャベツ以外の品目の栽培に向けて、生産技術などのノウハウを蓄積

Step1 (~S55)

基盤整備の実施

- 国営事業の実施に併せ、ほ場整備を実施し、平均20a区画に整備

Step2 (H5~)

集落営農

- 集落で話し合いを行い、営農部会を設置し、離農農家の農地を集落全体で管理
- 田んぼオーナー制度を開始し、大阪、京都などの都市部家族と交流

Step3 (H20~)

法人化

- 組織強化のため「農事組合法人 読合堂営農組合」を設立
- 大型機械の導入や法人への農地利用集積を促進

平成27年には、農地集積率100%を実現しています。

◆ FOEAS導入のメリット

水稻の乾田直播栽培時に地下かんがいを行うことで、苗立ちが安定化します。

また、設定水位に達すると、給水が自動停止するため、従来の7割まで水の使用量が減少し、下流の地区との水利調整が改善されました。

◆ 支援の役割分担は？

- ① J A : 生産計画や栽培管理等の指導、販路相談
 - ② 農機メーカー : 農業機械の研修サポート、販路拡大支援
 - ③ 愛の田園振興公社 : 商品開発サポート
 - ④ 東近江市 : 研修企画
- 等の支援を行っています。

◆ 販路の確保と安定的な出荷に向けて

協議会は、商談会に参加し、加工業者と販売契約を結ぶとともに、J Aは、安定して出荷できるよう、月別の需要量を踏まえ、生産者の生産計画の調整を行っています。

Step4 (H22~)

地下水位制御システム

- 排水性を改良するため、FOEAS (地下水位制御システム) を整備
- 【22ha/34ha (H28)】

Step5 (H23~)

フードシステム協議会

- 加工・業務用野菜の産地化を実現するため、市、4つのJ A、農機メーカー、公社により、協議会を設立
- 地域の担い手農家に対し、生産から流通・販売まで一貫した支援を実施

Step7 (H26~)

基盤整備の実施

- 施設の老朽化や営農の変化による用水不足を解消するため、ダム貯水池の掘削や水利施設の改修を実施

今後の展望

Step6 (H24~)

加工・業務用野菜

- 乾田化した水田において、加工・業務用キャベツの生産を開始
- 老人会等とともに収穫作業を行い、協議会が確保した販路 (京都のカット会社等) へ出荷

市単独事業により、自動キャベツ移植機を導入



カットされたキャベツ

地域資源保全

美しい農村

再エネ等

水利施設整備

防災・減災力